



科学

科学 トップ

教育 | 医療と介護 | 住まい | 大手小町 | 旅行 | グルメ | クルマ | ネット | しごと | 読書

ホーム

社会

スポーツ

マネー・経済

政治

国際

科

ホーム > 科学

天気 | 地図 | 買物 | 交通 | 映画 | 写真 | 動画 | データベース | サイトマップ

中

イレッサの副作用発症率、他の抗がん剤に比べ3倍に

肺がん治療薬イレッサ（一般名ゲフィチニブ）の副作用とみられる重い肺障害の発症率は、他の抗がん剤を使った患者に比べ約3倍に高まることが、イレッサを販売するアストラゼネカ社（本社・大阪市）が国内で実施した大規模な調査でわかった。

今回の調査は2003年11月から06年2月まで行われ、全国の肺がん患者4473人を登録。イレッサの代表的な副作用とされる、急性肺障害と間質性肺炎の発症率などを調べた。

その結果、イレッサを使用し3か月以内に発症したのは4%で、他の抗がん剤を使用した場合は2.1%だった。

喫煙歴があるなど重い肺障害を発症しやすい人はイレッサの治療から外されることが多いため、こうした対象患者の違いを考慮に入れると、イレッサは他の抗がん剤に比べ、発症の危険性が3.2倍に高まることが判明した。イレッサは、投薬から1か月以内の発症率が高いこともわかった。

イレッサの副作用によるとみられる死亡は2%だったが、これは主に重い肺障害が原因で、他の抗がん剤でみられる造血系の副作用による死亡は、1例もなかった。専門家は「喫煙歴以外の患者の特性もよく見極め、適切な抗がん剤を選択することが望ましい」と分析している。

（2006年9月27日20時57分 読売新聞）

YOL内関連情報